

ドクター + 教えて

神経ブロック療法とは

副病院長兼第3医療部長（手術・ICU）
兼麻酔科部長

たか かし ひろし
高 橋 浩



痛みの治療法には、お薬やマッサージなどによる「保存的療法」と、痛みの原因を取り去る「手術療法」の二つがあります。神経ブロック療法はそのどちらでもない、第三の治療法ともいえます。

神経ブロック療法は、痛みを伝える知覚神経ならびにその痛みの慢性化に関与する交感神経節周囲に針を進めて、主に局所麻酔薬を注入することで痛みの伝達を遮断する方法です。

局所麻酔薬の効果は1〜2時間程度ですが、その後も効果が持続するのは、痛みの悪循環と呼ばれる痛みを慢性化させる機構を抑え込むことによります。

人体は、何らかの痛みを自覚すると、反応の一つとして血管の拡張、収縮をつかさどる交感神経が興奮し、血管が収縮します。これにより血液の流れが悪くなると、筋肉が硬くなり、局所の組織が酸

素欠乏に陥ります。その結果、痛みを悪化させる発痛物質（ブラジキニンやセロトニン）が作り出され、さらに知覚神経への刺激が活発になります。こうした痛みの悪循環に対する神経ブロックは、血流を改善して発痛物質を洗い流し、自然治癒を促進します。

また、神経ブロック療法が無効であっても、痛みの原因が神経由来ではないとの診断に結び付くことから、次のステップへとつながる診断的意味合いをも持ち合わせています。癌による痛みには主として神経破壊薬（高濃度のエチルアルコール、フェノールグリセリン）を使用しますが、胸部や腰部の交感神経節ブロックでは高周波による凝固法を用いることもあります。

痛みでお悩みの方は、麻酔科外来で神経ブロック療法を受けてみることをお勧めします。

vol.76

日本に受け継がれてきた人権感覚

ふれあい交流センター センター長

藤田圭二



平成23年3月11日の東日本大震災は、未曾有の被害をもたらした。避難された方々を救助・支援する方がたくさんいました。自衛隊をはじめ、外国からも多くの方が来られ、軍隊も派遣されました。その中で、自衛隊の現場責任者「陸上自衛隊東北方面総監部補佐官」須藤彰さんが、後に書かれた本を読む機会がありました。その一部を紹介いたします。

【中略】支援に来てくれた米軍との間でこんな事がありました。米軍に、物資の輸送をお願いするのですが、何度お願いしても、場所も時間も必ず間違えるんです。「私の英語がだめなのか」とも思いましたが、メモを書いて渡しても間違えるんです。「こんな大事なときに、何をしているんだ。」と怒ると、米軍の責任者は、「ニコニコと笑って言ったんです。「決められた場所、時間に持っていくと、若い男が全部持つていってしまわざとずらせば、子どもやお年寄り、女性もチャンスがある。」とうれしそうに言うのです。なるほどとも思いましたが、皆さんもご存じのように、日本人はそういう行動はしません。」

その米軍の責任者を物資の配給場所に連れて行くと、若い男性も、子どもも割り込むことなく整列しています。力づくで物を奪う劣悪な人は一人もいません。その光景を見た米軍の責任者は、「信じられない。いろいろな国を支援してきたけれど、日本ほどレベルの高い国はない。」と感心してくれました。それ以降は、指示通りの時間と場所に物資が輸送されるようになりました。」

私たちは、人権感覚の成熟した素晴らしい国・日本に暮らしています。「順番を待つ」「独り占めしない」など、何気なく行っていることが、実は人権を大切にしていることであると気付きました。今、日本には、多くの外国人が暮らしています。磐田市にも、多くの外国の方がいらつしやいます。皆さんが、それぞれの国の文化を大事にしながらも、日本の素晴らしい人権感覚を継承してほしいと願っています。

人権感覚を磨くということとは、すごいことをすることではなく、何気ない日常の行動の中にあると思います。